

# 校務DXを促進するための取組に関する参考資料

令和7年3月26日

文部科学省初等中等教育局 学校デジタル化プロジェクトチーム



文部科学省

※各関連資料にはリンク（黄色でマーキング）から遷移できるようになっています

# 目次

1. チェックリストの項目を実施することにより期待される効果～取組を実施する前後の姿～ p2
2. 教職員の働き方の改善に対する効果実感が特に高かった項目（学校） p3
3. 取り組んでいる学校の割合は比較的低いものの教職員の働き方の改善に対する効果実感が高かった項目 p4
4. 全国の学校における働き方改革事例集（令和5年3月改訂版） p10
5. 特設ウェブサイト「StuDX Style」について p11
6. 「GIGA StuDX推進チーム」が研修のお手伝いをします！ p13
7. チェックリストを活用した効果的な取組に関するオンライン研修動画 p14
8. 初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン【概要】 p15
9. GIGAスクール構想支援体制整備事業 p16
10. 校務DXの取組に関するダッシュボード p17
11. デジタル改革共創プラットフォーム GIGAスクール構想チャンネル p18

# 1. チェックリストの項目を実施することにより期待される効果～取組を実施する前後の姿～

- チェックリストの項目を実施することにより期待される効果を、取組を実施する前後の姿で示した資料を公表しています。
- 各学校・学校設置者内で関係者からの理解を得るためなど、取組を推進するに当たってぜひ御活用ください。

## 学校向け

「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト(学校向け)」へ



Slide design | カタリスト for edu

## 学校設置者向け

「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト(学校設置者向け)」へ

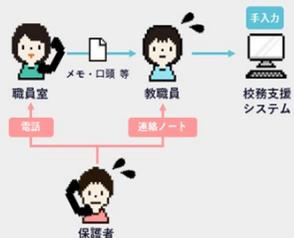


Slide design | カタリスト for edu

### 児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡

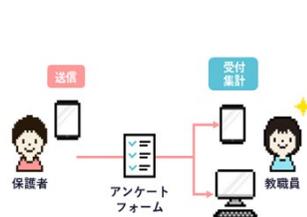
#### Before

朝の忙しい時間帯に電話や連絡ノートで受け付け、後から校務支援システム等に手入力して集計している



#### After

汎用クラウドツール(例:フォーム、Forms)等を活用してPC・モバイル端末等から随時受け付け、集計している



朝の忙しい時間の電話や連絡ノートの提出が不要となり保護者の満足度が向上するとともに、集計や連絡にかかる教職員の負担も大きく軽減

### 学校との各種事務手続き

#### Before

休暇申請、出張申請、出張復命、テレワーク申請、副業申請等各種事務手続きを紙で提出・集計・保存している



#### After

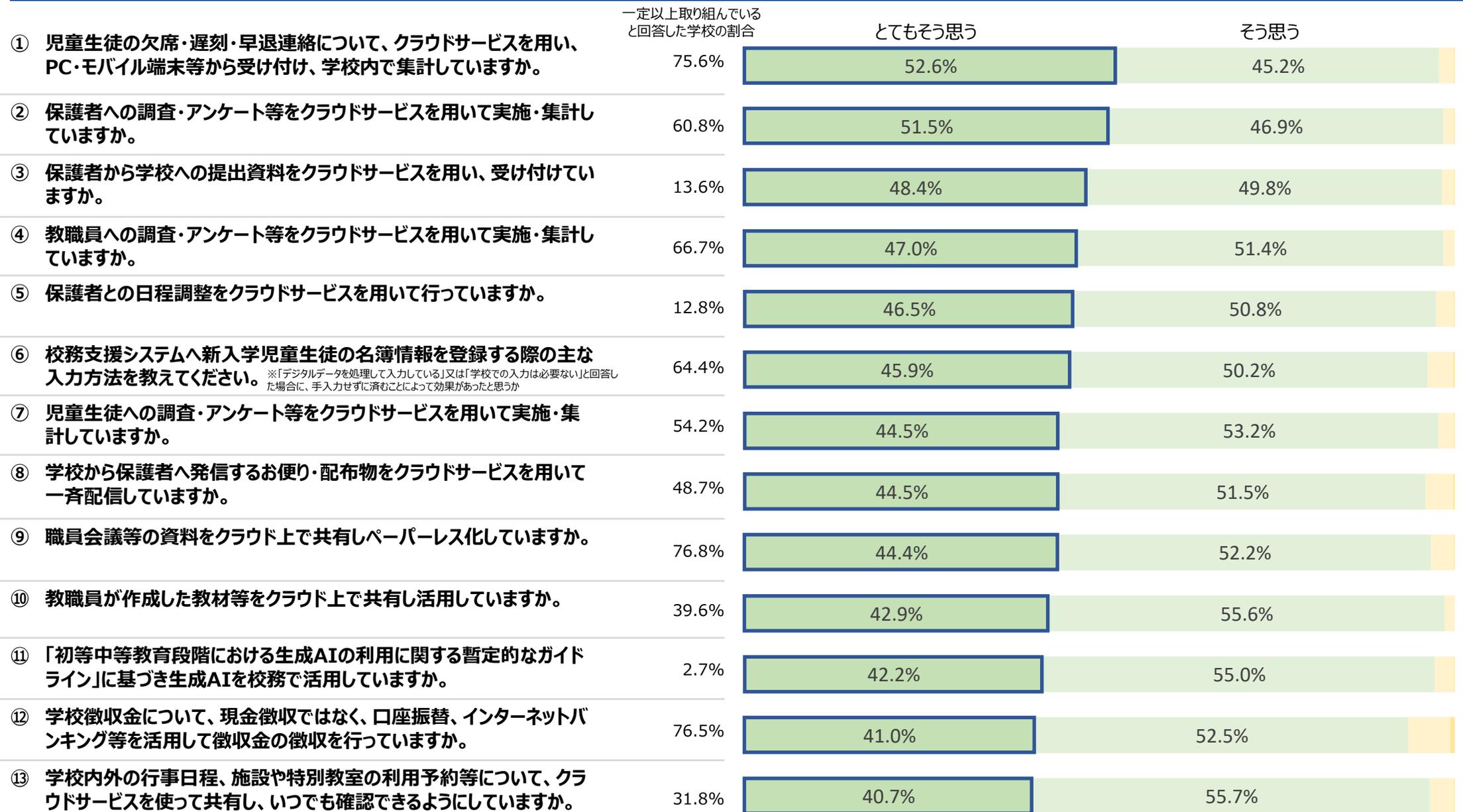
各種事務手続きの提出・集計・保存をペーパーレス化している



ペーパーレス化の徹底によりセキュリティ強化につながるとともに、各種事務手続きの提出・集計・保存が格段に効率化することで教職員の負担が軽減

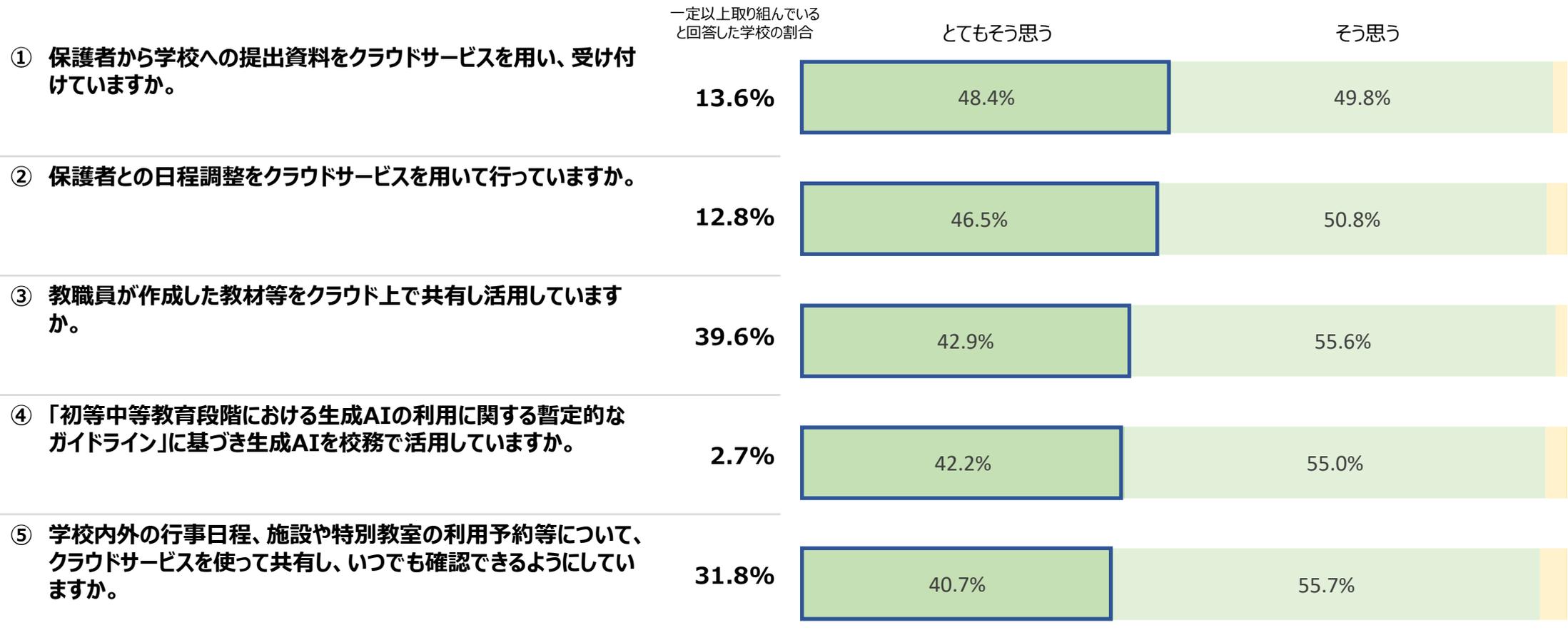
## 2. 教職員の働き方の改善に対する効果実感が特に高かった項目（学校）

- チェックリストの各項目について一定以上取り組んでいると回答した学校に対して、教職員の働き方の改善に効果があったと思うかどうかを尋ねたところ、効果実感が特に高かった項目については以下のとおり。
- これから取組を進めたいが何から着手したらいいのかわからない場合には、まずは以下の項目から取組を進めてみてください。



### 3. 取り組んでいる学校の割合は比較的低いものの 教職員の働き方の改善に対する効果実感が高かった項目

- 一定以上取り組んでいる学校の割合は比較的低いものの、取り組んだ学校においては教職員の働き方の改善に対する効果実感が高かった項目は以下のとおり。
- これらの項目について未実施の学校においては、取り組むことがより効果的であると考えられるため、ぜひ取り組んでみてください。
- なお、以降のスライドで、各項目に実際に取り組んでいる学校等の事例をまとめました。



※チェックリストの各項目において「完全にデジタル化している」又は「一部している（半分以上）」（もしくはこれらに相当する選択肢）と回答した学校の割合が40%未満、かつ、教職員の働き方の改善に効果があったと思うかどうかについて「とてもそう思う」と回答した割合が40%以上の項目を抽出。

※以降のスライドで事例をまとめるに当たっては、各学校等にヒアリングに御協力いただきました。紙幅の関係上、掲載が叶わなかった学校もございましたが、この場を借りて御協力に厚く御礼申し上げます。

### 3. 取り組んでいる学校の割合は比較的低いものの 教職員の働き方の改善に対する効果実感が高かった項目に関する取組事例

#### ① 保護者から学校への提出資料のクラウドサービスを用いた受付

#### 奈良市立鶴舞小学校

取組の内容	保護者からの提出を求めるほぼすべての書類、例えば年度当初の家庭調査票や保健調査票をWebアンケートフォーム等を用いて受け取っている。	
取組前後の業務実施方法の変化	取組前	<ul style="list-style-type: none"><li>各担当が書式を準備後、児童数分印刷し、配布していた。また、未提出の児童を確認・記録の上、提出するように連日、方法を変えながら呼びかけ、最終的には保護者に電話をかけていた。教頭は、学校全体の提出進捗状況を確認し、各担任に呼びかけていた。未提出の要因も多様で、そもそも保護者の手に渡っていないのか、保護者が未記入なのか、記入後の提出し忘れなのか、記入後の児童による紛失なのかわからなかった。</li><li>家庭調査票については年度末に各児童に紙で返却していたが、誤返却のリスクを抱えていた。</li></ul>
	取組後	<ul style="list-style-type: none"><li>プロセスがシンプルになったことで未提出になる要因が減り、未提出の割合が減った。また、提出済みかどうかクラウドサービス上で容易に判別できるようになり、出した・出さないのトラブルも未然防止できるようになった。</li><li>家庭調査票については各児童に返却する必要がなくなったため、誤返却のリスクもなくなった。</li><li>さらに、取組方法を検討する中で、保護者に提出を求める書類の見直しにもつながった。</li></ul>
取組前後の業務実施に費やす時間の変化	担任一人当たり、全部で数時間かかっていた作業が、10分の1くらいになった感覚がある。	
取組が進んだきっかけ	奈良市教育委員会による校務DXの強力な推進があった。また、校内においても新型コロナウイルス感染症への対応を通じて、保護者とスムーズにやり取りできる方法を模索した。最近では教頭と教務主任との間で、クラウドを用いることでどのように便利になるのかや、想定される懸念点等も含めて意見交換し、実現方法をブラッシュアップしたうえで取組を実行している。取組の実行に当たっては、校長の深い理解と協力を得ている。	



#### 山梨県甲州市立奥野田小学校

取組の内容	プールカード等の提出に、Webアンケートフォームを用いている。	
取組前後の業務実施方法の変化	取組前	<ul style="list-style-type: none"><li>各担任が朝にプールカードを紙で回収し、1枚1枚点検し、押印を行っていた。</li></ul>
	取組後	<ul style="list-style-type: none"><li>プールカードの回収や押印の手間が減り、保護者からの情報が自動で集約されるようになった。また、集約された情報は、いつでも、どこからでも端末で確認ができるようになった。</li></ul>
取組前後の業務実施に費やす時間の変化	プールカードの回収、押印がなくなったことで、1日あたり10分はこの業務にかかる時間が減ったと感じる。プール対応は1か月強の期間実施するため、積算すると一定時間の減少につながっている。	
取組が進んだきっかけ	甲州市全体でICTの活用が進められていることに加え、近隣にあるリーディングDXスクールと取組の足並みをそろえるため、校長や情報担当のリーダーシップの下で学校としても積極的に校務DXに取り組んでいる。新しいことを導入する際には、情報担当の教員が、クラウドサービスの活用に関心している教員と相談しながら進めている。	



### 3. 取り組んでいる学校の割合は比較的低いものの 教職員の働き方の改善に対する効果実感が高かった項目に関する取組事例

## 2 クラウドサービスを用いた 保護者との日程調整

#### 島根県安来市立第二中学校

取組の内容	個人面談や各種会合等に関する保護者との日程調整をWebアンケートフォームを用いて行っている。	
取組前後の業務実施方法の変化	<b>取組前</b> <ul style="list-style-type: none"><li>各担任が紙を用いて保護者との日程調整を行っていた。用紙を生徒に配布し、保護者からの回答を記入してもらって生徒経由で回収した後、日時の調整を行い、保護者に生徒経由で結果を連絡していた。</li><li>回答がない場合は、生徒経由あるいは保護者に直接電話で催促を行っていた。</li><li>用紙が保護者まで届いていない場合や、生徒が回答を出さない場合などもあった。また、回収の進捗を把握し、保護者に催促を行う業務は、<b>時間がかかると同時に各担任にとって心理的負荷の高いもの</b>だった。</li></ul>	
	<b>取組後</b> <ul style="list-style-type: none"><li>配布・回収・集計が容易になるとともに、生徒を経由せず、保護者に直接連絡ができるようになった。また、基本的に教頭に日程調整業務を集約することが可能となったため、特に個人面談の日程調整については、<b>学年の異なる兄弟・姉妹がいる場合の調整が容易</b>になった。</li><li>保護者への回答催促についてもクラウド上で可能になり、電話が繋がらずに催促できないということや、業務を行う時間が拘束されることもなくなった。</li></ul>	
取組前後の業務実施に費やす時間の変化	日程調整は、年間で、個人面談や各種会合など何度も発生するため、その都度、同じ業務を担当がそれぞれ行っていたところから1名に集約したことによる効率化や、回答待ちにかかっていた時間を考慮すると、 <b>数時間は減ったのではないかと感じる。</b>	
取組が進んだきっかけ	クラウドサービスの活用全般について、 <b>安来市教育委員会が環境整備をし、主導してくれた</b> ため、学校としても積極的に取り組んだ。小規模な学校であり、教員も全体として協力的だった。	

#### 鹿児島県垂水市立新城小学校

取組の内容	家庭訪問や教育相談等に関する保護者との日程調整をWebアンケートフォームを用いて行っている。	
取組前後の業務実施方法の変化	<b>取組前</b> <ul style="list-style-type: none"><li>各担任が紙を用いて行っていた。</li><li>用紙を印刷室に移動して印刷し、児童に配布し、保護者からの回答を記入後、児童経由で回収し、回答結果をシステムに入力し直していた。小規模校ではあるが、<b>この入力のし直しは手間</b>だった。</li></ul>	
	<b>取組後</b> <ul style="list-style-type: none"><li>入力のし直しは不要で、保護者からの回答が表計算ソフトで出力できるようになったので、<b>集計も容易になり、必要な時間も減った。</b></li></ul>	
取組前後の業務実施に費やす時間の変化	日程調整は年間で何度も発生することだが、体感として、以前は一つの案件の集計に <b>約15分かかっていたところが5分くらいで済むようになったと感じる</b> 。また、集計作業以外に、保護者への催促のための電話連絡や、希望日程に変更があった場合の調整や連絡に必要な時間も考慮すると、 <b>一つの案件で1時間程度は減っているのではないと思う。</b>	
取組が進んだきっかけ	歴代の校長のリーダーシップにより、クラウドサービスの活用全般について取組を進めてきた。年度初めには <b>ツールの使い方に関する研修を校内で行う</b> ことで、教員のツールを使うことへの苦手意識を軽減してきた。今年度から、校務分掌で従来、学力検査とDXを両方担当していた「教育方法係」から、DXを切り出して <b>新たに「教育DX係」を設置</b> して、取組の一層の推進を図っている。	

### 3. 取り組んでいる学校の割合は比較的低いものの 教職員の働き方の改善に対する効果実感が高かった項目に関する取組事例

### 3 教職員が作成した教材等の クラウド上での共有・活用

#### 岐阜市立方県小学校

取組の内容	教員が作成した教材をクラウド上のフォルダに保存・共有し、活用し合っている。		
取組前後の業務実施方法の変化	<b>取組前</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>各教員が各自で<b>一から教材を作成</b>していた。</li> <li>教員が作成した教材を参照し合うためには、<b>他の教員に見せてくれるよう依頼し、端末を見せてもらう必要があった</b>。あるいは、紙に印刷して共有する場合は、その<b>保存場所にも困り、いざ見たいときの探しづらさもあった</b>。</li> </ul>	<b>取組後</b> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>新規で教材を作成する必要がなくなり、他の教員が作成した教材を発展させて作成することができるようになった</b>。また、<b>次年度に参照することも可能</b>になった。</li> <li>教材は他学年の教員も見ることができるようになっているため、他学年のものを見ることで<b>自身の教材を捉え直す機会を得られる</b>ようになった。</li> <li>また、クラウド上でフォルダ分けして保存していることから<b>探しやすい、見たいときにいつでも見られるようになった</b>。</li> </ul>	
関係者からの声	教員が作成した教材をクラウド上で共有して利用することは、 <b>今も、これからも役に立つことだ</b> と思う。		
取組が進んだきっかけ	社会のデジタル化が急速に進む中で、 <b>岐阜市教育委員会によりクラウド環境が整備</b> され、岐阜市内の全学校の取組事例等の展開・共有がされる中、教師の働き方もデジタル化していかなければならないと考えた <b>管理職が、校内でのこれらの有効な活用について方針を出すとともに、校内でもアイデアを募り、推進を図った</b> 。		

#### 愛知県春日井市立篠原小学校

取組の内容	クラウド上で教材データベースを設け、 <b>教員が作成した教材や、授業で使用したWebサイト等をそこで共有</b> している。		
取組前後の業務実施方法の変化	<b>取組前</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>他の教員が作成した教材を参照したいときには、その教員に対して、<b>見せてくれるようにその都度、直接お願いをする必要があった</b>。</li> </ul>	<b>取組後</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>都度お願いをせずとも、<b>見たいときに、どこからでも、教材を参照することができるようになった</b>。</li> <li><b>教材等の種類によってカテゴリ分けして共有</b>していることから、どこに保存されているかわかりやすく、探しやすくなっている。また、学年を問わず教材を共有できることから、<b>他学年の学習内容の見通しもよくなった</b>。</li> </ul>	
取組が進んだきっかけ	<b>春日井市教育委員会が校務DXに積極的であり、校長会でクラウドツールを実際に活用する</b> などして、クラウドツールの便利さについて校長の理解を深めてきた。 校内では、 <b>校長と教務主任が実現できたらいいこと、やりたいことを提案しながら、一步一步校務DXの取組を進めてきた</b> 。また、 <b>近隣のリーディングDXスクールに視察</b> に行き、知見を学び取り、校内で共有している。学校をまたいだ教務主任の横のつながりで学び合いも行っている。		

▲教材データベース

### 3. 取り組んでいる学校の割合は比較的低いものの 教職員の働き方の改善に対する効果実感が高かった項目に関する取組事例

### 4 生成AIの校務での活用

#### 茨城県つくば市教育委員会・つくば市立島名小学校

##### 取組の内容

以下のような校務で生成AIを利活用している。

- ✓ アンケート分析 : 運動会、授業参観、校内研修、PTA行事等で実施する**アンケートの自由記述欄の要約のたたき台**や、**内容の傾向分析資料のたたき台**作成
- ✓ 研修企画 : 効果的な校内研修の**構成案のたたき台**作成
- ✓ 実施要項作成 : 学校行事や各種会議の**実施要項のたたき台**作成
- ✓ 挨拶文作成 : 校内研修等で話す**謝辞や各種挨拶文のたたき台**作成
- ✓ 議事録作成 : 会議の**議事録・要約のたたき台**作成
- ✓ 所見作成 : 通知表に記載する**所見のたたき台**作成
- ✓ 教材作成 : 授業で使用する**資料や問題等のたたき台**作成



##### 取組前

- 例えば、アンケートにおける自由記述欄を要約するためには、**各回答に目を通し、全体像を把握したうえで、どのような要約にするかを検討する必要があった**。また、記述内容の傾向分析に当たっては、**どのような意見が多かったかを地道に数えるしかなかった**。
- また、校内研修の実施や各種文書の作成に関しては、**前例のないものは一から構成や内容を検討したり作成したりする必要があった**。特に各種文書の作成については、何を書けばよいのかわからずに、**書き始めるまでに時間を要する場合も多かった**。
- 授業準備に関しては、例えば国語の授業において児童生徒同士で本の紹介をし合う場合には、**教員が見本を提示することが多いが、この見本を教員が一から作成するには、調べ物等も必要になり、時間がかかっていた**。

##### 取組後

- 生成AIが作成した**たたき台を確認・アレンジすれば業務が完了**するため、業務が効率化した。
- アンケートの自由記述欄の要約や、内容の傾向分析資料については、**生成AIが一瞬でたたき台をまとめてくれる**ため、全体像の概観が容易になり、分析結果から**今後の学校づくり・授業づくりの方向性や内容を検討する時間を持てるようになった**。
- 各種文書の作成に当たっては、前例のないものであっても生成AIからの提案やたたき台を参考にしながら、**円滑に進められるようになった。新たな取組にチャレンジするきっかけにもなっている**。
- 授業準備についても、生成AIが作成した教材のたたき台を基に準備ができ、**これまでより短時間で、より児童の実態に合った教材づくりができるようになった**。

##### 取組前後の業務実施に費やす時間の変化

例えばアンケートにおける自由記述欄の要約や、内容の傾向分析については、これまでは一つのアンケートに対して**約2時間かかっていたものが20~30分で済むようになった**。

##### 取組が進んだきっかけ

つくば市教育委員会として、**生成AIの活用により、働き方改革とともに、前例や慣習に囚われない新しい学校づくりを実現していきたいと考えている**。実現するために、各学校に配置している**学校ICT教育推進委員会を中心に、生成AIの活用の方向性を示してきた**。各学校においては、**管理職とともに学校ICT教育推進委員会が研修の時間を設定する**など、校内に生成AIの活用方法に関する知見を発信・共有し、活用の促進を図っている。

### 3. 取り組んでいる学校の割合は比較的低いものの 教職員の働き方の改善に対する効果実感が高かった項目に関する取組事例

### 5. 学校内外の行事日程、施設や特別教室の利用予約等についての クラウドサービスを用いた共有・確認

#### 埼玉県久喜市立桜田小学校

##### 取組の内容

行事予定や特別教室の予約等について表計算ソフトを用いて共同編集し、共有している。

##### 取組前後の 業務実施方法の 変化

###### 取組前

- 前日の夜、職員室の黒板に翌日の予定等の情報を書いていた。また、行事や教室の利用予約に関するお知らせに関する紙資料がデスクに配布され、変更点がある度に再配布されるため、デスクに紙が増える一方だった。
- 配布する側も、教職員全員分を印刷し、修正がある度に配布し直さなければならず、時間も紙も無駄だった。また、同一内容の修正を複数資料に対して行う必要があった。

###### 取組後

- 行事予定のシートを編集することで他の資料も連動して同時かつリアルタイムで表示されるようになり、これを同時編集しながら情報を即時共有できるようになった。このため、紙でのやり取りは不要になるとともに、修正時の二度手間・三度手間もなくなった。
- 出張時も、学校に戻ってきて紙を確認しないと最新の状況がわからないということがなく、出先からでも確認できるようになった。
- 天候の都合で急遽、体育館を使うことになるといったような急な対応にもスムーズに対応できるようになった。
- また、行事予定のシートは学校日誌等とも連動しているため、これらの文書の作成が容易になった。

##### 取組前後の 業務実施に費やす 時間の変化

修正発生時の紙の印刷し直しや教職員への再周知の時間などを考えると、行事関連の連絡業務にかかる時間は半減したように感じる。

##### 取組が 進んだきっかけ

久喜市教育委員会が市全体で校務DXを進めていこう、やり方を変えていこうとする動きが大きかった。桜田小学校としても、新型コロナウイルス感染症への対応で教職員が分散出勤する中、クラウドサービスを活用した。これを通じて、便利だという実感を持った取組が徐々に広がっていった。情報担当が仕組みを作り、管理職の理解と協力の下で進めることで、他の教職員への働きかけもしやすくなった。



12月9日(月)		12月10日(火)		12月9日(月) 出席黒板	
読書	表彰朝会	在籍	出席	欠席	出席
放課後子ども教室 桜田ゆうゆうアザ ④ 16:00 *学習や生活についてのアンケート週間(児童・保護者) *動静表不切(G2休職申請も同様) ※1月以降の申請は新様式へ(11/20現在新様式は、まだありません) *会計関係不切 (担当→教頭1-3年こ1,2,3組 4-6年こ4,5組) 【SSS勤務日】欠	※校内LANとgigaネットワーク接続不可※加m7も校務用pcもX(設定、機器取付作業)9:00-14:30頃まで 作業後、県費事務システム及びえがおのログ確認必須(当日中、事務・養護教諭) 15:30 (校長)埼玉小学校長会調査研究部会研究協議会ワケ15:15 (教頭)Google Meetへの移行のための研修会ワケ15:00	全校 763 694 53 16 0 0	1年1組 34 30 4 0 0 0	1年2組 34 25 9 0 0 0	1年3組 34 29 4 1 0 0
就学支援委員会④15:00 相談室 ① 14:50 ② 14:50 ③ 14:50 ④ 14:50 ⑤ 14:50 ⑥ 14:50 ① 5, ② 5, ③ 5, ④ 5, ⑤ 5, ⑥ 5	① 14:50 ② 14:50 ③ 15:45 ④ 15:45 ⑤ 15:45 ⑥ 15:45 ① 5, ② 5, ③ 5, ④ 6, ⑤ 6, ⑥ 6	2年1組 28 26 2 0 0 0	2年2組 28 26 2 0 0 0	2年3組 27 23 4 0 0 0	2年4組 27 27 0 0 0 0
○新任者研修指導 09:15 久喜市立栗橋西小学校 教諭 ○第4回STEAM教育研究委員会 13:15 久喜市立栗橋西小学校 教諭 (教頭、主任、各学年主任、養護主任)ICT支援員の活動に関する満足度調査	○第1回久喜市小・中学校教頭研究協議会 09:30 久喜市立栗橋西小学校 教諭 ○支那語文通訳見直し 13:00 埼玉立久喜特別支援学校 教諭 (主任)ICT活用研修希望日報告	3年1組 33 33 0 0 0 0	3年2組 32 32 0 0 0 0	3年3組 30 29 0 1 0 0	3年4組 32 21 0 11 0 0
[年休] [年休以外]	[年休] [年休以外]	4年1組 31 30 0 1 0 0	4年2組 30 30 0 0 0 0	4年3組 31 29 2 0 0 0	4年4組 31 30 1 0 0 0
		5年1組 28 28 0 0 0 0	5年2組 28 24 4 0 0 0	5年3組 29 27 2 0 0 0	5年4組 29 25 4 0 0 0
		6年1組 34 33 1 0 0 0	6年2組 31 28 1 2 0 0	6年3組 34 30 4 0 0 0	6年4組 34 31 3 0 0 0
		ごすもず1 5 3 2 0 0 0	ごすもず2 5 5 0 0 0 0	ごすもず3 6 6 0 0 0 0	ごすもず4 4 3 1 0 0 0

特別教室予約		ファイル 編集 表示 挿入 表示形式 データ ツール 拡張機能 ヘルプ										
12月9日(月)		12月10日(火)										
行事予定	図書室	理科室	多目的室	図工室	家庭科室	第二音楽室	体育館	校庭(校舎前)	校庭(南門前)	校庭(バスケット)	校庭	校庭
12月10日(火)					6年1組							
12月11日(水)					6年1組							
12月12日(木)					6年1組							
12月13日(金)					6年1組							

▲職員室にあるモニターに行事予定等を投影

▲特別教室予約のための表計算ソフト

## 4. 全国の学校における働き方改革事例集（令和5年3月改訂版）

- 「全国の学校における働き方改革事例集（令和5年3月改訂版）」には校務DX関連箇所も多くあり、特にPart3では、「明日からできるグループウェア活用法」として、すぐに使用できるフォーマットも含めて具体的なツールの使い方をまとめています。
- 校務DXを進める上で、そもそもツールをどのように使えばいいのかわからない場合には、まずはこちらを御覧ください。

全国の学校における

# 働き方 改革 事例集

令和5年3月改訂版



### Part3 明日からできるグループウェア活用法

p.158~p.263

[「全国の学校における働き方改革事例集（令和5年3月改訂版）」Part3へ](#)

- ◆ Google Workspace for Education™、Microsoft 365 Educationの使い方（グループの作り方、Webアンケートフォームの作り方等）を画面を示しながら説明しています

- ◆ **すぐに使用できるフォーマットも掲載**しています

掲載フォーマットの例：

#### 保護者面談調整フォーム

Google Workspace for Education [「【公開用】グループウェア活用の雛形」へ](#)

Microsoft 365 Education [「保護者面談調整フォーム」へ](#)

#### 保護者の同意書フォーム

Google Workspace for Education [「【公開用】グループウェア活用の雛形」へ](#)

Microsoft 365 Education [「保護者の同意書フォーム」へ](#)

#### その他の校務DX関連箇所

- ICTを活用した小学校・中学校の事例（p.4～p.11）

[「全国の学校における働き方改革事例集（令和5年3月改訂版）」Part1へ](#)

- 取組の具体的な方法や削減時間の目安（p.20～）

[「全国の学校における働き方改革事例集（令和5年3月改訂版）」Part2へ](#)

## 特設ウェブサイト「StuDX Style」について

特設ウェブサイト「StuDX Style」では、1人1台端末の更なる利活用の促進に向けて、全国の学校や自治体から提供いただいた端末の活用方法に関する優良事例等を数多く紹介しています。

具体的には、①活用のはじめの一歩となる「慣れる」「つながる」活用事例 ②各教科等での活用事例 ③STEAM教育等の教科等横断的な学習での事例があります。

スタディーエックス スタイル

# StuDX Style

GIGAスクール構想を浸透させ 学びを豊かに変革していくカタチ



"すぐにも" "どの教科でも"  
"誰でも"活かせる1人1台端末の活用シーン

- 慣れる  
つながる  
活用
- 各教科等  
での活用
- STEAM教育等の  
教科等横断的な  
学習

- 教師と子供が  
つながる
- 子供同士が  
つながる
- 学校と家庭が  
つながる
- 職員同士で  
つながる

GIGAに慣れる (文房具や教員として使えるようにする)

### 各教科等での活用事例

各教科等の指導における1人1台端末の活用事例について  
小学校・中学校・高等学校の各教科等のポイントや、各教科等の特質を踏まえた活用事例を紹介しています。



小学校				中学校			
国語	社会	算数	理科	国語	社会	数学	理科
生活	音楽	保健体育	家庭	音楽	美術	保健体育	技術・家庭
体育	外国語教育 外国語	特別活動 特別活動	進路教育 進路教育	外国語	特別活動 特別活動	総合的な 学習の時間	特別活動
特別活動							
特別支援教育				高等学校			
特別支援 教育	特別支援 教育	特別支援 教育	特別支援 教育	国語	地理歴史	公民	数学
音楽・ 身体教育	音楽・ 身体教育	音楽・ 身体教育	音楽・ 身体教育	理科	保健体育	芸術	外国語
				家庭	情報	総合的な 学習の時間	特別活動
外国人児童生徒等教育							
オンライン 日本語指導	通訳 指導	通訳 指導	通訳 指導				

### STEAM教育等の教科等横断的な学習の取組事例

STEAM教育等において、各教科等での学習を実社会での  
問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習  
を推進している自治体や学校の取組事例を紹介しています。



#### GIGAに慣れる活用事例



学習環境づくり等の取り組みやすい事例や、パスワード指導やルールづくり等の適切で安全な端末活用の事例などを中心に、1人1台端末の活用に取り組み始める先生方へのヒントとして紹介しています。

#### 「つながる」活用事例



「教師と子供がつながる」「子供同士がつながる」「学校と家庭がつながる」「職員同士でつながる」について、授業等での活用のヒントが欲しい先生に向けての活用事例を紹介しています。

#### 特集ページ



自宅等でのオンラインを活用した学習指導に関する事例や、GIGAスクール構想に先進的に取り組んでいる自治体の研修、**校務等に関するポータルサイト**及びコンテンツ情報などを紹介しています。

#### 各OS事業者との連携

各OS事業者と連携し、StuDX Styleの事例の使い方などを紹介しています。

## 特集ページ

自宅等でのオンラインを活用した学習指導に関する事例や、GIGAスクール構想に先進的に取り組んでいる自治体の研修、**校務等に関するポータルサイト**及びコンテンツ情報などを紹介しています。

🔍「全国の校務DXポータルサイト」へ



## 全国の校務DXポータルサイト

全国の校務DXに関するポータルサイトや取組等について紹介します！



[関東地方](#) [中部地方](#) [九州地方](#)

全国の多くの自治体等で、校務DXに関するポータルサイトが作成されています。校務DXに関連する各地域の事例や取組等を全国の皆さんへ共有することで、1人1台端末の更なる利活用の促進や働き方改革へつなげたいと考えています。  
※ このページは、校務DXに関するポータルサイトの情報をいただき次第、随時更新していく予定です。

## ○ 関東地方

- ・ 栃木県 「とちぎ教育ICTポータルサイト」  
(<https://www.tochigi-edu.ed.jp/educenter/ICTPortal/example>)
- ・ 群馬県 群馬県教育DX推進センター  
(<https://sites.google.com/gw.system-alpha.co.jp/dxgunma/ホーム>)
- ・ 神奈川県 ICTすぐ使えるTips (活用事例)  
(<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/edu-ctr/gakkoshien/icttips.html>)

ギガ

スタディーエックス

通称 ギガスタチーム

# 「GIGA StuDX 推進チーム」が



対面で



オンラインで



## GIGA StuDX 推進チームとは？

全国各地から配置された**12名**の教師がチームとなり、**特設ウェブサイト「StuDX Style」**からの**情報発信**や、**メルマガの配信**、**教育委員会**や**学校現場の悩みや課題**などに**応じた研修等の伴走支援**を行っています。

## 研修のお手伝いをします！

令和2年12月に文部科学省に設置された「GIGA StuDX 推進チーム」では、**教育委員会**や**学校現場の悩みや課題の解決**に向けた伴走支援として、**対面/オンラインでの研修**をお手伝いしています。

### 豊富な研修実績！

令和6年3月現在

教育委員会主催の先生方や指導主事向けの研修や、GIGAスクール構想に関連する協議会等における情報提供など、全国の自治体から依頼をいただいています！

R5 研修実績

# 130回！

● 都道府県 61回	● 学校 13回
● 市区町村 44回	● その他 12回

※校内研修のお手伝いもできますので、お気軽にご相談ください。

全国各地の授業等における活用事例を教えてください！

個別最適な学びと協働的な学びの実現とは？

クラウドを活用した演習をお願いしたい！

ご相談に応じて対応します！

### 研修メニュー例

- 1 GIGAスクール構想の趣旨説明
- 2 今、求められる教育についての説明
- 3 授業等における活用例紹介
- 4 **校務や研修等における活用例紹介**
- 5 クラウドを活用した演習
- 6 最新の参考情報等の紹介 など



「1人1シート」を相互参照

ICT活用に関する最新情報が満載の特設サイト



はこちらから！



研修のご依頼は  
電話、メールまたは  
右の相談フォームで！

お問合せ先

文部科学省初等中等教育局 GIGA StuDX推進チーム

TEL 03-5253-4111 (内線4039)

E-mail [gigastudx@mext.go.jp](mailto:gigastudx@mext.go.jp)

相談フォーム



## 7. チェックリストを活用した効果的な取組に関するオンライン研修動画

- チェックリストを活用した効果的な取組に関するオンライン研修動画を公開しています。
- 校内研修や教育委員会における研修等にぜひ御活用ください。



### 学校 DX 戦略アドバイザー事業

# オンライン学習会



GIGAスクール構想の下での校務DXの推進  
～校務DXチェックリストを活用した  
効果的な取組とは～

令和6年2月26日（月）  
15:30～16:30

#### 1. 講演

文部科学省 初等中等教育局

学校デジタル化プロジェクトチームリーダー

修学支援・教材課長 武藤 久慶

#### 2. ディスカッション

① 今回の調査をどう受け止めたか

② この調査を活かしてどうすべきか

【ファシリテーター】

ほっかいどう学推進フォーラム 理事長 新保元康 氏

【パネリスト】

文部科学省 武藤 久慶

学校DX戦略アドバイザー 森 万喜子 氏

一般社団法人ライフ&ワーク 代表理事 妹尾 昌俊 氏

※所属・役職は当時のもの



# 8. 初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン【概要】

教職員や教育委員会等の学校教育関係者を主たる読み手として、学校現場における生成AIの適切な利活用を実現するための参考資料となるよう、生成AIの概要や基本的な考え方、場面や主体に応じて押さえておくべきポイントをまとめたもの。



## 1. 生成AIについて

### 生成AIの概要



- 生成AIとは、文章、画像、プログラム等を生成できるAIモデルにもとづくAIの総称
- 汎用的なサービスだけでなく、様々な提供形態・提供主体が出現し、教育分野にも導入
- 様々なリスクの存在が指摘される一方で、技術的な対策も進展

## 2. 基本的な考え方

### 人間中心の利活用



- 生成AIを有用な道具になり得るものと捉え、出力を参考の一つとして、リスクや懸念を踏まえた上で、最後は人間が判断し、責任を持つことが重要
- 学習指導要領に定める資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味した上で利活用
- 学びの専門職としての教師の役割が一層重要

### 情報活用能力の育成強化



- 生成AIの仕組みの理解、学びに生かしていく視点、近い将来生成AIを使いこなすための力を、各教科等の中において意識的に育てていく姿勢は重要
- 生成AIが社会生活に組み込まれていくことを念頭に、情報モラルを含む情報活用能力の育成を一層充実させていくことが必要

## 3. 学校現場において押さえておくべきポイント

### 教職員が校務で利活用する場面



- 校務において利活用することで、校務の効率化や質の向上等、働き方改革につなげていくことが期待される
- 教職員自身が新たな技術に慣れ親しみ、利便性や懸念点を知っておくことは、児童生徒の学びをより高度化する観点からも重要
- 生成AIの仕組みや特徴を理解した上で、生成された内容の適切性を判断できる範囲内で積極的に利活用することは有用

### 児童生徒が学習活動で利活用する場面



- 発達の段階や情報活用能力の育成状況に留意しつつ、リスクや懸念に対策を講じた上で利活用を検討すべき。その際、学習指導要領に定める資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味することが必要
- 「生成AI自体を学ぶ場面」、「使い方を学ぶ場面」、「各教科等の学びにおいて積極的に用いる場面」を組み合わせたり往還したりしながら、生成AIの仕組みへの理解や学びに生かす力を高める

### 教育委員会等が押さえておくべきポイント



- 教育委員会が主導して制度設計や方向性を示すことが重要
- 各学校の実態を十分に踏まえた柔軟な対応を講じる必要がある
- 先行事例や教材・ノウハウの周知・共有、研修の実施により、生成AIの適切な利活用を推進する環境を整備することが必要

### 共通して押さえておくべきポイント



- 安全性を考慮した適正利用
- 公平性の確保
- 情報セキュリティの確保
- 透明性の確保、関係者への説明責任
- 個人情報・プライバシー著作権の保護

### 参考資料編

- 各場面や主体に応じたチェック項目、生成AIパイロット校における先行取組事例、学校現場において活用可能な研修教材 等

# 9. GIGAスクール構想支援体制整備事業

令和7年度予算額（案）

5億円  
（新規）



## 現状・課題

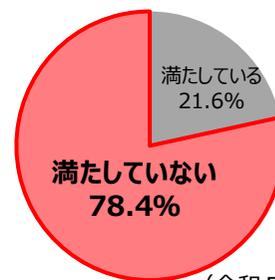
- 1人1台端末の日常的な利活用や、デジタル教科書、CBTの導入が進むなかで、文部科学省は令和6年4月に同時・多数・高頻度での端末活用を想定した「当面の推奨帯域」を設定。
- 一方、この推奨帯域を満たしていない学校は8割となっている。今後、ネットワークアセスメントの徹底やその結果を受けた通信ネットワークの着実な改善を図る必要。
- また、学校における働き方改革や学習系・校務系データの連携、大規模災害等発生時のレジリエンス確保を実現する、クラウド環境・アクセス制御型のセキュリティ対策を前提とした次世代校務DX環境の整備、教育データ利活用の基盤となる情報セキュリティ対策、教職員のICTリテラシーの向上など、GIGAスクール構想第2期を強力に推進するための基盤整備が急務。

令和6年度補正予算額

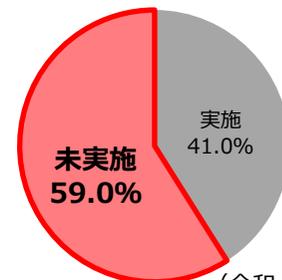
60億円

当面の推奨帯域を満たしていない学校の割合

ネットワークアセスメント実施状況



（令和5年度）



（令和5年度）

## 事業内容

### (1) 学校の通信ネットワーク速度の改善

① ネットワークアセスメントの実施、② アセスメントの結果を踏まえたネットワーク環境の改善に係る初期費用（機器の入れ替えや設定変更等）を支援。これにより、学校の通信ネットワークの改善を図る。

- ※ ネットワークアセスメント・・・学校内外のネットワーク構成要素を評価し、課題の把握・原因箇所の特定を行うこと。
- ※ ②支援対象はネットワークアセスメント実施済学校に限る。

<ネットワーク・アセスメントのイメージ>



### (2) 次世代校務DX環境の全国的な整備

#### ① 都道府県域での共同調達を前提とした次世代校務DX環境の整備支援

都道府県域での共同調達・帳票統一を前提に、自治体の次世代校務DX環境整備に係る初期費用（校務系・学習系のネットワークの統合に係る費用や、校務支援システムのクラウド化に係る費用等）を支援。

#### ② 都道府県域での次世代校務DX環境整備に向けた準備支援

都道府県域での共同調達を前提に次世代校務DX環境整備を行う際に必要となる帳票統一・ネットワーク環境等に関する都道府県域内の実態調査、ロードマップの策定、RFP作成等の各種プロセスを支援。

### (3) 学校DXのための基盤構築



教育情報セキュリティポリシーの策定/改定支援、セキュリティリスクアセスメントや端末利活用等の専門家による支援、ネットワークの共同調達の支援等、学校DXに向けた技術的なコンサルタントに要する経費を支援。

<次世代校務DXとは>

令和5年3月に文部科学省がとりまとめた「GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」に方向性を示している、ロケーションフリーでの校務実施、タッチボード上での各種データの可視化を通じたきめ細やかな学習指導等が可能となる校務DXの在り方。

#### 補助率等

事業主体：都道府県、市町村

補助割合等：3分の1

予算単価（事業費ベース）：

(1)：①：1,000千円/校 ②：2,400千円/校

(2)：①：6,800千円/校 ②：50,000千円/都道府県

(3)：200千円/校

GIGAスクール構想第2期の基盤整備を強力に推進

（担当：初等中等教育局学校情報基盤・教材課）

# 10. 校務DXの取組に関するダッシュボード

- 文部科学省とデジタル庁が共同開発した「校務DXの取組に関するダッシュボード」において、各地方公共団体における校務DXの取組状況を可視化しています。
- 本ダッシュボードで各地方公共団体の現在地を御確認いただきながら、校務DXの取組を加速ください。

## 全国の校務DXの取組状況



校務DX項目		デジタル化状況		文部科学省											
教職員と保護者間：欠席・遅刻・早退連絡		半分以上がデジタル化		北海道・東北		関東		中部		近畿		中国・四国		九州・沖縄	
北海道	68%	茨城県	87%	新潟県	72%	三重県	64%	鳥取県	78%	福岡県	76%				
青森県	74%	栃木県	82%	富山県	80%	滋賀県	88%	島根県	56%	佐賀県	71%				
岩手県	30%	群馬県	89%	石川県	75%	京都府	87%	岡山県	77%	長崎県	56%				
宮城県	74%	埼玉県	93%	福井県	82%	大阪府	90%	広島県	69%	熊本県	62%				
秋田県	62%	千葉県	87%	山梨県	67%	兵庫県	81%	山口県	54%	大分県	53%				
山形県	51%	東京都	91%	長野県	76%	奈良県	82%	徳島県	42%	宮崎県	66%				
福島県	52%	神奈川県	91%	岐阜県	84%	和歌山県	57%	香川県	48%	鹿児島県	49%				
				静岡県	89%			愛媛県	52%	沖縄県	83%				
				愛知県	89%			高知県	57%						

● 上位5位

※「校内での情報共有」「FAXの原則廃止」「押印の原則廃止」の割合は、「完全にデジタル化」「半分以上デジタル化」に関わらず、「実施済」の割合を表しています。

2024年11月時点の数値



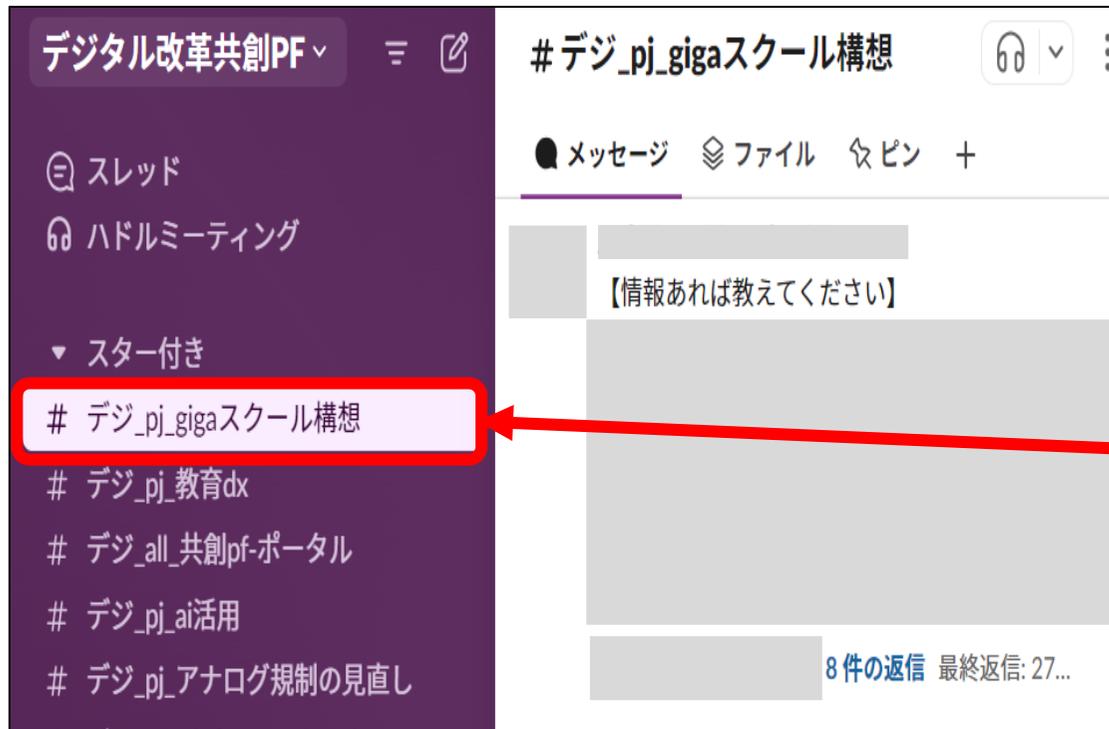
※本画面は、令和6年度速報値を反映したものです。

[「校務DXの取組に関するダッシュボード」へ](#)

# 11. デジタル改革共創プラットフォーム GIGAスクール構想チャンネル

## デジタル改革共創プラットフォームとは

デジタル庁が地方公共団体及び政府機関に所属する**職員の交流、情報交換、政策立案の支援**を目的として運営している  
ビジネスチャットツールの**Slack**を活用した「**直接対話型**」のコミュニケーションプラットフォームです。  
地方公共団体と政府機関の職員であれば誰でも参加することができ、**個人として発言**できることを重要視しています。



(画面のイメージ)

ブラウザ版Slackからも利用可能です。LGWAN環境でも利用できます。

## 参加者は

「lg.jp」または「go.jp」ドメインのメールアドレス  
をお持ちの地方公共団体または政府機関の職員  
※**教育委員会の方も多数参加されています。**

## 【#GIGAスクール構想チャンネル】

教育委員会同士の横のつながりを作り、困っている  
ことの相談や情報交換をすることでGIGAスクール構  
想が更に活性化することを目的に「GIGAスクール構  
想チャンネル」を開設しています。小さな悩みや  
ちょっとした疑問を投稿し、相談し合えます。ぜひ  
チャンネルに参加して、校務DXを進める上での疑問  
点等の解消に積極的に御活用ください。



デジタル庁のWebサイトから登録が可能です。

デジタル庁 共創プラットフォーム

検索

デジタル庁

デジタル庁ニュース

共創PF

自治体・政府機関

[「デジタル改革共創プラットフォーム」へ](#)

[「自治体職員×政府機関職員 デジタル改革共創PFへの招待申請フォーム」へ](#)